

時間学特別セミナー

## 生命科学部門



日時：平成30年12月10日（月）  
15時00分～16時00分

場所：吉田キャンパス  
総合研究棟3F フォーラムスペース

演者：宮戸 健二 先生

（国立成育医療研究センター、研究所、再生医療センター、室長）

【細胞外微粒子から探る生と死—受精とガン研究から分かること—】

細胞は、さまざまな種類の細胞外微粒子を介して細胞間物質輸送を行う。エクソソームは細胞外微粒子の仲間であり、タンパク質、脂質、microRNAを輸送する構造体として、主に腫瘍細胞が自身の成分を周辺の正常細胞に送り込むために使うことが知られている。一方、我々は、エクソソームの構成因子であるテトラスパニンCD9に着目し、CD9が卵側因子として精子と卵の膜融合に不可欠であり、さらにCD9を含む構造体が膜融合を促進することを発見した。この構造体は、エクソソームと構成因子が共通するものの構造が全く異なり、2重脂質層を持たない逆ミセル状の微細な構造体の集まりである。この構造体の最小単位をマイクロエクソソームと命名し、この構造体を生体が形成する意義について、個体の「生と死」の観点からお話ししたい。

※事前申込み不要

※参加無料

どなたでもご参加いただけます。  
皆さまのご参加をお待ちしています。

問合せ先  
時間学研究所 事務室  
TEL：083-933-5848  
MAIL：sh076@yamaguchi-u.ac.jp